

第5回JR川越線利便性向上推進協議会概要

- 1 日 時 令和8年8月20日(木曜日) 13:30~14:20
- 2 場 所 WEB会議(Teamsウェビナー)
- 3 出 席 者 さいたま市都市局長 蓮見純一
川越市都市計画部長 小林武
埼玉県企画財政部長 都丸久
JR東日本大宮事業本部経営戦略ユニット長 神保成究(オブザーバー)
- 4 議 事 (1)JR川越線の利用拡大に資するまちづくりの現状と今後の展開
について
ア さいたま市におけるJR川越線沿線のまちづくり及び進捗状況
について
イ JR川越線南古谷駅周辺のまちづくり等について
(2)羽田空港アクセス線(仮称)の状況
(3)その他
- 5 配布資料 第5回JR川越線利便性向上推進協議会 次第
JR川越線利便性向上推進協議会 会員等名簿
資料1 さいたま市におけるJR川越線沿線のまちづくり及び進捗状況
について
資料2 JR川越線南古谷駅周辺のまちづくり等について
資料3 羽田空港アクセス線(仮称)の状況

ー議事概要ー

- ・議事(1)「JR川越線の利用拡大に資するまちづくりの現状と今後の展開について」
のア「さいたま市におけるJR川越線沿線のまちづくり及び進捗状況について」さい
たま市から資料1により説明があった。
- ・川越市から、土地区画整理事業等のまちづくりによる西大宮駅周辺の人口増加に
ついて、具体的にどのような世帯が増加しているのかとの質問があった。さいた
ま市からは、西大宮周辺では子育て世帯の定住が進み、子育て世帯の割合が高い
地域となっている。2025年時点で、西大宮エリアの15歳未満人口の割合は約27%
と、さいたま市全体の約13%を大きく上回っており、良好な住環境整備と交通利
便性向上の成果と考えている。現在も指扇及び宮前土地区画整理事業が進行中で、
住宅地の整備や産業機能の集積による地域発展が期待されており、これらのまち
づくりの進展により、通勤・通学・業務利用等の移動需要が高まり、川越線の利
用者増加につながると考えている。との回答があった。
- ・県から、大宮駅のグランドセントラルステーション化構想、西大宮駅周辺及び宮

前地区の土地区画整理事業等、JR 川越線の沿線地域で多層的な取組が進められており、利便性向上や定住促進につながる取組が着実に進められていると思っている。実際に西大宮駅周辺の人口は4年で約18%増加しており、成果が大きく表れていることかと思う。更なる利便性向上や、川越線の利用者増加に向け、引き続きよろしくお願いしたい。との発言があった。

- ・議事(1)のイ「JR 川越線南古谷駅周辺のまちづくり等について」川越市から、資料2により説明があった。
- ・さいたま市から、まちづくりワークショップ等のまちづくり活動において、これまで市民からどのような意見・要望があり、得られた市民の声を今後どのように反映させていく方針か。との質問があった。川越市からは、南古谷駅周辺地区整備事業については、事業の進捗に合わせ地域住民と意見交換する場を設け、可能な範囲で整備内容に反映するとともに今後の地域活性化につなげる取組を行っており、具体的な意見としては、自由通路内への待ち合わせスペース確保、駅前広場への一般車一時停車スペース設置などがあった。また、駅周辺の活性化を目的とし、市民同士が語らい繋がる場として開催しているまちづくりワークショップでは、南古谷駅周辺における魅力について情報交換するとともに、地域内外に向けた魅力発信等について話し合い、駅前広場でのイベント開催、伊佐沼など駅周辺の自然資源を活かした交流の場づくり、自由通路等での音楽・アートを楽しむような企画づくり等、様々なアイデアが出ている。市としては、駅周辺基盤整備事業をきっかけに市民主体のまちづくり活動の輪が一層広がり、子育て世代を中心とした人口増加を期待しており、南古谷駅を含む川越線沿線を盛り上げていきたいと考えている。との回答があった。
- ・県から、公共施設、商業施設など様々な施設が集積し重要な拠点となっている南古谷駅が南北自由通路と駅前広場の整備により市街地の一体化が実現することで、駅の利便性が大きく向上することが期待される。また、市民ワークショップ等の住民参加型の活動や新たに開園したヤオコーみんなの広場によって、JR 川越線沿線の定住人口や交流人口の増加につながることを期待している。県としても、川越市と連携を図りながら JR 川越線各駅の利便性向上や利用促進を進めていきたい。との発言があった。

- ・議長から、本日紹介いただいた取組については、自治体間で連携を図りながら取組を進めていく。との発言があった。
- ・議事(2)羽田空港アクセス線（仮称）の状況について、JR 東日本から、資料 3 により説明があった。
- ・JR 東日本から、例年夏頃に公表されている各駅及び路線別の利用状況については、2026 年 4 月 27 日のプレスリリースのとおり、諸データの計算方法の見直しにより 2025 年度の利用実績の集計作業が完了しておらず、川越線の利用状況の推移については公表できる段階となり次第、沿線各自治体に共有させていただきたく、御理解をお願いしたい。との発言があった。
- ・さいたま市から、羽田空港アクセス線については、現在整備が進められている東山手ルートの整備により、さいたま市内の宇都宮線・高崎線方面から羽田空港へのアクセス向上が期待されている。また、西山手ルートが実現した場合には、川越線・埼京線方面からのアクセス性向上が期待され、川越線沿線の利便性向上や利用促進にもつながるものと考えており、西山手ルートについても具体的な検討が進められることを期待している。との発言があった。
- ・川越市から、羽田空港アクセス線の基幹となる東山手ルートの工事が、2031 年度の開業に向けて着実に進んでいることがわかった。本計画は広域交通ネットワークを牽引する素晴らしい事業だと感じており、引き続き、遅れることのないよう事業を推進していただくとともに、西山手ルートの早期事業化についてもお願いしたい。また、本市としても南古谷駅の南北連絡自由通路をはじめとした基盤整備を行うことを契機とし、川越線の利用者数の増加につながるよう、引き続き取り組んでいくので、この協議会を通じて互いの取組を共有し、連携・協力を図っていききたい。との発言があった。
- ・議長から、羽田空港を取り巻く環境については、随時、空港機能の強化が図られており、今後も利用者数の増加が想定されているということがわかった。また、羽田空港アクセス新線の整備により、川越線沿線を含む埼玉県内から羽田空港までの所要時間の短縮や乗換回数の減少が見込まれている。これらに伴う経済効果として、利用人員の増加による消費拡大、交通利便性の向上による企業誘致、地域内での雇用創出など、複合的な波及効果が本県にもたらされることを期待して

いる。羽田空港アクセス新線の早期完成に向け、引き続き事業の着実な推進をお願いしたい。また、西山手ルートの実業化に向けての検討も加速いただくようお願いしたい。との発言があった。

- ・議長から、さいたま市及び川越市からは、現在それぞれが取り組まれている JR 川越線の利用者増加に向けた施策について説明いただいた。大宮駅や南古谷駅など、JR 川越線の各駅を中心とした整備事業や住民参加型の取組等により、JR 川越線の利用者増につなげる取組が着実に行われていることを確認した。今後も、こうした取組を共有しながら、県と市がそれぞれの立場で連携・協力し、相乗効果を図っていききたい。また、JR 東日本からは、羽田空港を取り巻く環境と、羽田空港アクセス線の東山手ルート及びアクセス新線の計画概要について御報告いただいた。羽田空港の機能強化により今後も利用者増が見込まれており、さらに羽田アクセス線の整備により、沿線地域の人員増加や地域の活性化が期待される。西山手ルートが事業化されると、川越線沿線においても更なる発展につながると考えており、西山手ルートの実業化の実現に向けても御尽力いただきたい。今後も本協議会を通じ、最新の情報を御報告いただきたい。JR 川越線については、以前に JR 東日本から、利用者増が複線化を検討する上での前提条件としてお話をいただいております。本日皆様からお話いただいた取組は、地域の活性化に寄与し、JR 川越線の利用者増に大きく資するものと認識している。今後も、本協議会を通じて、情報共有、連携・協力をお願いしたい。との発言があり、了承された。

以上